

津高同窓会報

発行所

〒514-0042 津市新町3丁目1-1

津高等学校
同窓会事務局

TEL・FAX 059-229-7331

mail:office@tsuko.jp

共立印刷株式会社

二十福のなかに先と



同窓会長 飯田俊司(昭和36年卒)

会員の皆様には平素より同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年津高は創立百四十周年を迎えました。同窓会も記念事業実行委員会を立ち上げ、多くの事業を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、同窓会名簿「あお母校」の発行、母校への寄付等のための記念募金以外の事業の延期または中止を余儀なくされました。また、毎年開催の総会・パーティー、東京、大阪、名古屋の各支部総会なども中止となりました。

現在、延期中の百四十周年記念事業

は昭和49年卒の小菅一弘東北大名教授の講演を録画配信で予定しております。母校への寄付も決定しております。

今後の総会・パーティーは、真夏の八月を避け六月開催とし、次回は、来年二〇二二年の六月二十五日メッセウィング・みえでの開催を予定しています。

一昨年十二月に中国・武漢市の原因不明の肺炎発生が報道されたときは、同窓会活動にこれほどの影響があるとは想像もしていませんでした。新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に拡大し、昨年三月にはWHOによりパンデミックが宣言されました。

日本では「三密」(密閉、密集、密接)の回避、マスク着用、手洗い、外出自粛などの対応をしたものの、ワクチンはなく昨年だけで感染拡大は三波

に及び、今また第四波がやって来しました。新型コロナウイルス感染症は、人々の生活を変えました。

自分が感染しないため、家族や友人、同僚などに感染させないため、自由を制限され生活の楽しみを奪われ我慢の自粛生活を余儀なくされました。多くの失業者、企業の倒産・休廃業など経済に深刻な影響も出ています。さらに感染力が強くて重症化しやすい変異ウイルスの割合が急激に高まっており、



2022年6月25日開催予定のポスター

タイトル・書 工藤雅俊(昭和45年卒)

創立百四十周年を迎えて	2	津高創立百四十周年記念事業	2
記念講演会	3	ホームページ企画	3
母校のこころ旅	3	母感・昭和十九年津中入学から現在まで	5
聖火ランナーになって	5	コロナと付き合いつながら	6
新型コロナウイルス感染症	6	医療者としての思い	7
コロナ禍にあつて	7	高校生活というもの	8
短歌について	8	津高創立百四十周年募金寄付者御芳名	9
		進路状況	11
		有造塾が開催されました	11
		物語者	11
		令和四年度総会・パーティー	12

まだまだこの先予断が許されない状況にあります。

これまで日本の医療技術、医療体制は世界でもトップクラスだと信じられてきましたが、現状は心もとない感じます。特にワクチン接種が感染予防の最善の策という現状、輸入品に頼らざるを得ないのでは、必要な時に必要な量の確保は難しく、一日でも早い国産ワクチンの開発が望まれます。

人類と感染症は戦いの歴史でありま

した。主な感染症だけでもペスト、天然痘、コレラ、インフルエンザなどの蔓延により、多くの人が命を落としました。

自由や人権は、もちろん大切ですが、人に迷惑を掛けないという思いやりの気持ちがない限り、コロナの収束は難しいのではないのでしょうか。

会員の皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

創立百四十周年を迎えて

三重県立津高等学校長 大川 暢彦



会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育活動に多大なるご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。さて、本校は、明治十三年に旧津藩校「有造館」を譲り受け、津中学校として開校し、三重県尋常中学校を経て、

明治三十二年に三重県第一中学校、同三十四年に三重県立第一中学校に、大正八年には三重県立津中学校と改称されました。昭和二十三年には新学制の実施に伴い、三重県立津中学校と三重県立津高等学校が統合し、三重県立津高等学校が誕生し、昭和三十年には三重県立津高等学校と改称され、現在に至っています。明治、大正、昭和、平成、そして令和の五代にわたる歴史を重ね、昨年、記念すべき創立百四十周年を迎えました。しかし、予定していたいておりました記念事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、

残念ながら中止となり、記念講演については本年十月二十五日に開催することとなりました。

学校におきましても、昨年度は長期に渡り臨時休業となり、通常授業再開が六月にずれ込み、教育活動のスタートがかなり遅れました。臨時休業期間中、生徒は指定された課題や学習に取り組むとともに、本校教員によるオンラインで配信した授業動画を自宅で見聴し、学びを深めていました。学校再開後は当初予定されていた行事等も中止・延期または縮小し、夏季休業期間も短縮することにより、授業を優先した教育活動を進めてきました。また、部活動においても各種大会、各種コンクール等も中止になり、全国の高校生との活躍の場が失われました。そのような状況の中でも、津高生は腐ることなく「自主自律」「文武両道」の伝統を受け継ぎ、生き生きと高校生活を謳歌してくれました。

今年度もコロナ禍の中、感染症対策、健康管理を徹底した上で、教育活動を進めています。特に昨年度、電子黒板機能付きプロジェクターがすべての普通教室に設置され、無線LAN環境や学習用情報端末も整備され、ICT（通信情報機器）を活用した学習活動にも取り組んでいます。本校で学ぶ生徒たちが、伝統を継承しつつ、変化の激しい時代をたくましく切り拓く次世代リーダーとして成長できるよう、教職員一同全力で取り組んで参ります。

私事で恐縮ですが、私の教員生活に「旅」をテーマにして津高同窓会のホームページ上に近況報告、エピソード、写真、ビデオレター等を掲載する予定であります。

また十月二十五日(月)午後一時から、ロボット研究で著名な小菅一弘氏(昭和49年卒)の講演会を開催し、動画配信サイトでの公開も予定しております。(詳細はそれぞれの項をご参照下さい)。

津高同窓会ではこれまでの会報およびホームページを通じての情報提供に加え、インターネットを活用して、若い世代や海外在住の方にも参加して頂ける形を模索していきたいと思っております。

幕を引く年を迎えることになりました。教員生活の最終章を、歴史と伝統ある津高校で迎えられたことを光栄に思っています。本校で良き生徒、良き教職員に恵まれ充実した日々を送らせていただいています。とりわけ、会員の皆様の母校を思ふ熱い気持ちがひしひしと伝わり、同窓生から愛され、期待されている学校であることに重い責任を感じています。

最後になりましたが、津高校に三年間お世話になりましたことに、衷心より御礼申し上げます。津高校の今後の発展と同窓会の更なる発展、そして会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念し、御礼の言葉といたします。

津高創立百四十周年記念事業.....

昨年の十一月一日は津高創立百四十周年に当たっていました。その日に向け三年前より実行委員会を立ち上げ記念事業を検討して参りました。事業内容として、▽名簿発行▽募金▽母校の放課後▽ゴルフ大会▽海外旅行▽経ヶ峰登山を企画していましたが、新型コロナウイルスの影響で変更を余儀なくされました。

津高創立百四十周年記念事業

実行委員長 戸田 喜之(昭和44年卒)

の、今年になってもコロナ禍が収まる気配がないため、ゴルフ大会と経ヶ峰登山は再延期、海外旅行は未定としました。

創立記念日に同窓生が母校の校舎に集う企画「母校の放課後」については、

各学年の代表者も多くの方の協力を得て進めて参りましたが残念ながら中止とし、改めてコロナウイルスに影響を受けない代替案をリモート会議により検討いたしました。

新たな企画として、「母校のこころ



今回の企画は特別な状況下での初めての試みです。このコロナ禍を乗り越え、皆様と元気でのお会い出来るよう祈念いたします。

記念講演会

百四十周年記念事業の一環として、来る令和三年十月二十五日(月)に母校の体育館にて記念式典および記念講演会を予定しています。講師には、昭和四十九年卒の小菅一弘氏にご登壇いただきます。

小菅氏は本校卒業後、東京工業大学工学部、同大学院理工学研究科にて制御工学を学びました。民間企業を経て、同大で助手を勤めながら博士号を取得、その後マサチューセッツ工科大学MIT客員研究員、名古屋大学助教授を経て、東北大学工学部教授に就任されました。本年四月からは東北

大学大学院工学研究科特任教授トランスフォーメティブAI&Robotics国際研究センター長、六月からは香港大学工学部電気電子工学科Chair Professorも兼務、東北大学と香港大学との国際共同プロジェクトを推進しておられます。

研究対象とするロボット工学・制御工学の分野において、複数ロボットの協調制御システム、人とロボットの協調制御システムの開発およびその運動制御技術の提案を行うとともに、それらロボット技術の産業応用に取り組んでおられました。

このように、ロボット技術の実用的な研究で多大な研究業績をあげているとして、平成三十年秋の褒章において紫綬褒章を受章されました。

この間、人の意図を推定し協調して動く近未来型ロボットとして考案、開発された社交ダンスロボット(PBDR)は、平成十七年の愛知万博のステージでも披露されて大きな注目を集めました。その後は世界初のダンスティーチングロボットの誕生にも関与するなど研究を深めておられます。

新型コロナウイルスの影響が予測されず卒業し、民間企業を経て、大学に勤務することになりました。国際会議や研究のために多くの国を訪れましたが、今は、COVID-19の影響で隔離期間があるため、頻りに海外と日本との行き来が難しくなりました。本年三月末から香港大学に来ております。海外の多くの友人達のおかげで、今のプロジェクトを立ち上げることができました。プロジェクトでは、多くの人に役立つような、人間中心テクノロジーに関する研究開発をしています。本講演では、私のこれまでの、ちょっと変わったキャリアパスを紹介させていただきます。

講師からのメッセージ

東北大学大学院工学研究科 特任教授
トランスフォーメティブAI&Robotics国際研究センター長
香港大学工学部電気電子工学科
Chair Professor

小菅 一弘(昭和49年卒)



本年三月、最後の職場である東北大学大学院工学研究科ロボティクス専攻で定年を迎えました。定

年がない国もあるのですが、日本には定年があります。現在は、二年ほど前から準備してきた国際プロジェクトを遂行するため、東北大学大学院工学研究科・トランスフォーメティブAI&Robotics国際研究センター・センター長として活動を継続しております。高校生の頃から海外に憧れ、留学したくて仕方なかったのですが、大学時代には留学のチャンスに恵ま



ホームページ企画

母校のこころ旅

〈あなたのこころ旅〉

津高時代と言えは思い出す、あなたの懐かしいあの場所や風景、懐かしいあの人や言葉、懐かしいあの光や色、音や香りや味。それは人それぞれ。あなただけの津高時代の思い出の場所をイベントスタッフが取材し、その周辺の「昔」や「今」をあ

なたの思い出とともにご紹介させて頂くという企画です。津高や津高界隈津新町、あるいは津市にまつわる懐かしい思い出や特別なエピソードをお寄せ頂き、託して頂けないでしょうか。思い出の場所とエピソードを提供していただける方は、メー

許さない現状に鑑み、講演会是小菅氏を本校にお迎えする形と、リモートにて校外からお話し頂く様子をスクリーンで上映する形との両案で準備を進めております。また、感染拡大防止の観点から当日会場に足を運んでいただくことできない、より多くの同窓生に視聴していただける方法として、一定期間内のWEB上の動画配信サイトで

の録画映像としても公開する予定です。会場にて聴講希望の方は、氏名▽住所▽卒業年▽連絡先電話番号▽を記入の上、はがき・メール・ファックスのいずれかにて九月三十日までに津高同窓会事務局までお申し込み下さい。定員五十人(定員になり次第締め切り)。皆様お誘い合わせの上、ご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

ル、FAX、手紙等でご連絡ください。
「あなたのこころ旅」は津高同窓会の特設HPに掲載させて頂く予定です。併せて「津高」や「何を思い出さか」のアンケートも展開し、集計したその結果も合わせてご紹介致します。

思い出を共有しているからこそ仲間、同窓生かと思えます。津高、津新町、津を共に懐かしむ多くの同窓生たちのこころもシンクロして頂ける、そんなコーナーにしたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

◆「あなたのこころ旅」エピソード送付先

メール: 140kokoro@tsuko.jp
FAX: 059(229)73331
手紙: 事務局あて

◆「あなたのこころ旅」アンケート



Q1 あなたの学生時代の思い出の場所はどこでしょうか? 学校周辺(津市内)でお答えください。(複数回答OKです)

Q2 あなたの思い出の場所について、なぜ思い出の場所なのか理由をお書きください。

Q3 あなたの津高での担任教師はどんなでしょう。各学年でお答えください。

Q4 あなたにとって思い出深い恩師はどんな人でしょうか。

Q5 あなたはクラブ活動をされていたでしょうか? されていたらお教えください。

Q6 あなたのお名前をお答えください。

Q7 あなたの卒業年度をお答えください。

Q8 あなたの連絡先(メールアドレス)

または電話番号)を教えてください。

回答は、メール、FAX、郵送の他、インターネットでも受付をしています。左記のQRコードをスマートフォンで読み込むか、左記URLからパソコンでも回答できます。

メール回答: 140kokoro@tsuko.jp
FAX: 059(229)73331

へなつかしい恩師の今

「母校のこころ旅」の目玉のひとつ、「恩師コーナー」では、連絡が取れた恩師の先生方をお願いして、津高在職中の思い出やご自身の近況について書いて頂き、当時(あるいは最近)の写真をご提供頂きます。

なつかしい高校生活は、先生存在抜きには語れません。熱心に勉強を教えてくださった先生、日々の生活や人生の悩みに直面した自分を支えてくださった先生、クラブで厳しく指導していただいた顧問の先生、中には、反発したりぶつかったりしたことも。

十代の多感な頃、自分たちよりはるかに大人だったあのときの恩師と今の

URL: <https://tsuko140.site/enque>

エピソード、アンケートとも八月末日までにお送り下さい。

母校のこころ旅
QRコード



へ現役生の部活紹介

創立百四十周年記念の同窓生に向けた部活動・同好会のページです。

二〇二〇年度は新型コロナウイルス

対策の影響で県総体や高校野球選手権大会などもまさかの中止となり、その他のイベントにおいても次々と中止が

決定していきました。部活動で熱心に活動してきた生徒たちも目標を失い、活動においても大きな戸惑いを覚えた一年間であったと思います。
いまだウィルスの勢いは衰えを見せませんが、対策をしっかり行うことによって大きな制限を受けながらも徐々に活動を再開しています。
そのような中、現在の活動状況、ここ数年の活動の成果、OB・OGの皆さんへのメッセージやお願いなどを、3分から5分の動画で紹介致します。是非ともご覧ください。

へあなたのこころ旅
へなつかしい恩師の今
へ現役生の部活紹介へは、いずれも同窓会の百四十周年記念行事ホームページ上で十月公開を予定しています。

津高同窓会
ホームページ
QRコード



雑感・昭和十九年津中入学から 現在まで

澤田 啓司 (陳川24年卒)



昭和六年生まれの小生は、八十九歳を迎える老人です。幸い健康に恵まれ、今も老人施設と新生児、乳児の健診に勤めています。

コロナウイルスに関しては、拙詠をお読み下さい。

▼マスクして息を殺してバスに乗るコロナ身近に潜む不気味さ

▼老幼を診る医師なれば己が身を先ず守るべきと慎みている

▼コロナウイルス神仏を知らぬ異端分子人の思いをおもんばからず

医師が自らの生活のゆるみから感染源になることは恥という自戒をこめて詠みました。

医師になったばかりの私は、決してよい医師ではありませんでした。怖い先生と言われ、去ってゆく患者さんも多く、一面大声で怒鳴りつけるのは患者を思ふ故だと理解して下る方もあって過ぎてきました。これではいけないと気付いたのは六十歳頃でしょうか。

いまになって漸く良医になれたかなと感じています。

医師としての信条は、目の前の病める人、未来ある子どもたちに対して自からの最善を尽くしきること。これは鬼手仏心という言葉にも、ヒポクラテスの誓いにも通じると思っています。

さて一人の老人としての私は、次第に失われてゆく能力を悔いずに、残されている能力を築き、役立てるようになんがら生きています。耳が不自由になれば、目を使えることをやる。

絵を描き、花を楽しむ、読書し、文を書き、短歌を詠む。若い頃より現在の方がずっと人生を楽しんでいると感じています。

その楽しみを支えるために、ひたすら歩き、上半身は腕立て伏せ、ぶらざがり筋力を鍛えています。

生涯を通じて心がけていることは「考える」ことです。個を通じてマスを、マスを通じて個を見て全体を考える。宮澤賢治「雨ニモマケズ」の一節「ヨクミキキシワカリ」を勝手に拝借しますが、見聞きしたものの背景を理解することは、誤りを冒さないために大切です。これによって、人類の思考の司令塔である大脳の前頭前野の能力が高められると思います。

聖火ランナーになって

山本 三千代 (昭和36年卒)



二〇一九年十二月二十五日、一通のメールを受けました。

「おめでとございます!! 厳正な審査の結果、あなたは正式に東京二〇二〇

次に述べたいのは、津高の前身である県立津中学校での思い出です。

私の兄たち三人は、津中先輩です。私も当然の様に昭和十九年に津中を受験し合格しました。あろうことが一年五組の級長を命じられました。田舎芝居の役者が大舞台の主役になるような感じです。郷里の久居からみれば津は都会、そこで突然五名のクラスのトップに据えられたのです。級長はクラスの代表として一見藤太郎先生の教練でも、よく檜玉にあげられました。二年に進級して級長から下りましたが、いまだに一年五組の仲間たちとはつきあいがあり、級長扱いされています。若い頃の友情は途切れることがありません。

オリンピック聖火リレーのランナーに選ばれました。このメールが東京組織委員会からの正式な通知です。とあり、この時は嬉しくて信じられなかったのですが、凄くクリスマスプレゼントになりました。

私は、ボランティア活動で津市健康づくり推進員をして十五年以上になり、会員の有志で施設やサロンからの依頼を受け慰問活動もしています。もう一つは十数年前から津市ボランティアガイドネットの安濃津ガイド会に所属して県内外のお客様に名所旧跡をご案内してきており、地元への愛着も増えています。

さらにスポーツが大好きで、聖火ラ

津中が空襲で灰塵に帰するまでに、いろいろなことがありました。東南海地震や爆弾、焼夷弾による度重なる津の空襲。今となってはそれも懐かしい思い出です。

太平洋戦争を大きな目でみれば、小さな空襲は記録に残されていません。しかし一年五組の級友が二人爆死しています。杉田君、玉置君は名簿にも載っていない名前です。私には、この二人は忘れることが出来ない級友です。政府が如何に憲法改正を主張しようと、戦争はしてはなりません。

津高校の後輩たちに何かしら心に響くものをアピールできたのであれば、私の駄文も誌した甲斐があるというものです。

ランナーで元気になったら高齢者の方々により一層、前向きな気持ちになっていただけると思ふのでした。

その後、三月下旬延期の連絡が入り残念でしたが「中止でなくて良かった」と思い、「平凡な日常が、どんなに幸せなことか」と強く思い知った一年でもありました。

コロナ禍が早く終息して、世界中の皆様と選手の想いが一つになって私も笑顔の中での聖火ランナーでありたいと願いつつ待っていました。

今年春になってようやく聖火が全国七番目で三重県に巡ってきました。四月七日本番は、絶好の日となりました。私の走行場所は、伊勢市で外

宮から近い県伊勢庁舎前交差点南から車橋ででした。

聖火ランナーが走ってへる前には、スポンサーの華やかな車の列でエールを送ってくれるので周りも大変盛り上がり夕陽迫る中でのトーチキス。沿道の人々の応援で重さ一・二キロのトーチも苦にならず楽しく走ることが出来た。この感動は一生の思い出です。

コロナと付き合いながら……

中山 正隆 (昭和44年卒)



私は、津高大阪同窓会の事務局長を務めています。大阪同窓会総会は年一回秋に開催されますが、昨年はコロナのために中止となってしまいました。五十三回を数えています。このような感染症拡大のために中止というのは初めての事です。同窓会は本部も、東京も、名古屋も中止となってしまいました。

私は、大阪で弁護士をしています。本来、人と会って事情を聴き、現場に出向く、裁判所に行く、関係先の会議に出席するというのが仕事ですが、コ

日頃の皆様への感謝の気持ちと元氣をお届けしようと思っていいたら自然と笑顔で走っていました。

最後のランナーがセレブレーションの行われる県営総合競技場の舞台に立ち、みんながつないだ聖火を採火皿へ点火し無事一日目終了となりました。

伊勢庁舎へ戻るバスで、隣の席が面白い芸人のチャンカワイさんというハ

ロナのために、これがごとごとく中止になり、自宅でのテレワーク、電話での打ち合わせ、リモート会議、裁判は延期となり、ほとんど仕事にならないことになってしまいました。

こうなったら、とことんコロナと付き合いながら行くしかないかと決めた。第一波の緊急事態宣言期間中、時差出勤中に街の様子を眺めてみました。

(その一) 大阪の中心地、大阪駅の中央コンコースの床が「迷路」になっています。(写真1) いつもは雑踏のため見ることはできません。外出自粛が始まって、人の流れがなくなり、午前十時にもかかわらず迷路が見えたのです。私も初めてでした。

(その二) 同窓会にまつわる話題を。大阪中之島を散策中、元大阪大学医学部のあったところ、今は大阪大学中之

プニングがあり、名張と津にゆかりの江戸川乱歩の話等して楽しかったです。世界中が、大変な状況で東京五輪開催につき賛否が割れる中、胸中は複雑でした。福島をスタートして、ひとりひとりの希望の光をつなぎ七月二十三日、開会式が行われるオリンピックスタジアムに灯される迎聖火リレーが続くのでしょうか？

島学舎が小ぢんまりと建っています。その南隣に「大阪北教会」があります。(写真2) 人通りのない裏道にひっそりと佇んでいます。平成二十四年十月二十日の朝日新聞に、「作曲家信時潔が幼少期を過ごした教会」とあります。



写真1 大阪駅の中央コンコース

牧師さんの養子になったとのこと。長じて東京音楽学校に進学し、作曲家になって、「海ゆかば」など数多くの楽曲を残しました。校歌も多く作曲し、慶応義塾塾歌、灘中・高校歌……そして津高校歌も。「津高校歌のルーツは大阪にあり！」と大阪同窓会としてはアピールしたいところです。大阪で三重県の高校同窓会の関西支部が集まって三重県高校同窓会連絡協議会が結成され、情報交換や懇親を深めています。そこでこの校歌が話題となりました。なんと桑名高校、上野高校も信時潔の作曲、上野高校に至っては作詞山口誓子と同じです。こんなと



写真2 大阪北教会

ころで共通の話題となり、大いに盛り上がっています。

私は、コロナ禍も災害と受け止めています。台風や地震のような限定的な災害と違って世界を覆い尽くす災害です。私は戦後の二大災害と言われた伊勢湾台風、阪神淡路大震災を体験しました。そして東日本大震災。私は、阪神淡路大震災では、弁護士として被災者救済のための法律援助事業に携わり、復興のために奔走することができました。東日本大震災では、真先に被災地に入り、避難所での法律相談に参加することができました。

コロナにどう立ち向かうか、弁護士として、法律家としてコロナに対して何ができるのか、全く無力であることに思い至っています。コロナとは付き合い合っていくしかないのかと大きなジレンマに陥り、また今年の大阪同窓会が開催できるかにも悩まされています。

新型コロナウイルス感染症へ 医療者としての思い

永納 和子（昭和46年卒）



医師になって四十五年。その大部分を麻酔科医として歩んできました。今も大学医学部の麻酔科に籍を置き、付属病院で手術時の麻酔と後進の指導を主な仕事としています。

新型コロナウイルス感染症は、直接関係ないように思える手術にも大きな影響を与えました。昨年四月の第一波以降感染者が増える中で、コロナ感染症専用病床を確保するために一般病床を減少せざるを得なくなり、不要不急の手術患者の受け入れができなくなることもありました。患者さんご自身が感染を恐れて受診をひかえられた結果、持病が悪化したり症状が進んだ状態で手術を受けられるケースが増えました。感染が否定できない疑似症の患者さんの緊急手術も入ってきます。疑似症患者さんの手術は、室内を陰圧に保ったコロナ感染症専用の手術室で、防護服を着て、通常の外科用マスクの下に密着性の高いマスクを着けて行い、手術

中必要になった物品はドアの隙間から受け渡すなど、一度手術室に入ったら容易に出ることができない環境で行います。

私の勤務する病院は、昨年三月、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号での感染者を受け入れて治療にあたりました。そのため感染予防に対して十分な対策をとっていたつもりでした。

コロナ禍にあって

長谷川 一明（昭和51年卒）



と仰るじゃないですか。聞けば私より数年後輩。それまでこちらが敬語で話していたのが、主客逆転。件の編集長さんが急に恭しい態度に変わったという経験があります。郷里の同窓とはおりがたいものです。

仕事柄、多くの方にお会いしますが、話が進むうちに「ご出身はどこですか」という郷土の話題になることがままあります。「三重県です」という答えに遭遇することは珍しいのですが、あるとき某マスコミの編集長が同郷と分かり、高校を問うと、「津高です」

しかし四月に院内で集団感染（クラスター）が発生しました。当時、一回目の緊急事態宣言が発出された時期で、また集団感染のおこった施設が少なかったのも、テレビなどで全国に報道されました。第四波の今に比べると一日の新規感染者数は少なく、コロナウイルスの感染力の強さも深く認識されていませんでした。当院の集団感染は、入院中の陽性患者さんからではなく、別の病気で入院された一人の患者さんから広がったものでした。院内全体で感染が広がった経緯を検証し、感染対策を検討し、職員一丸となって感染予防に取り組みました。その結果、本年五

月現在、院内感染は起こっていません。しかし全国的には個々に報道されないくらい多くの病院や高齢者施設、一般の会社などで集団感染が発生してきています。

ワクチンの接種が始まりましたが、国民全体にいきわたるにはまだまだ時間がかかりそうです。変異ウイルスの感染も増えています。治療薬はまだありません。今の感染の蔓延を予防するには、各自の予防に頼るしかないのが現状です。ワクチン接種についてマスクなどで危険性が報道されていますが、現時点での感染収束への道は、マスク着用、手洗い励行、三密回避など

理科棟に鞆を持って移動したこと、クラブ活動のこと、岩田川でのレガッタ大会のことなど、今となっては遠い青春のセピア色の思い出です。

現在、私はJR西日本の経営を預かる立場にあります。就任したのは一昨年の十二月。就任の挨拶回りを終え、年が明けたと思ったら新型コロナウイルスの感染が始まり、これまでずっとその猛威に晒され、大変厳しい経営状況に直面しております。ご存知のとおり、鉄道会社はお客様が移動し、ご利用いただくことが生業でありますから、人流抑制、ステイホームとなると事業の足元が瓦解するわけです。そして、より厳しいことにこの影響は一過性のものではありません。リモートワークやWEB会議などの進展により、アフ

個人個人が予防対策することとワクチンによりすべての人が免疫をつけることではないのです。

コロナ感染の蔓延は、医療の負担を増加させ、受けられるべき医療が受けられなくなることを意味します。この病気は新型コロナウイルス感染症という単一の病気ではなく、あらゆる病気やケガに影響を与える病気といっても過言ではありません。一日も早く収束させるためにも、感染を他人事と思わず、感染予防に努めていただきたいと思っています。

ターコロナの時代になってもお客様は残念ながらもとの状態には戻らないといつことなのです。

我が国の少子高齢化により、国内旅客需要はインバウンドや国内観光を別にする、今後少しずつ縮小していくと考えていましたが、このコロナの災禍によって、来てほしくない未来が駆け足で近づいてきたという認識です。例えて言うなら、二〇二〇年の次は二〇二一年ではなく、二〇三〇年だったといつことなのです。

この未曾有の経営危機に対し、私は、「社会インフラとしての使命を守る」、「お客様、社員の安全を守る（感染防止）」、「雇用を守る」、「サプライチェーンを守る」という四つの基本方針を明確にしてこれに臨んでいます。そして、

社会行動変容の結果、二〇一九年以前の状態には戻らないとの認識に立ち、収益、コスト両面における事業構造改革を急がなければなりません。

望むべき状況ではありませんが、この災禍を企業風土改革、人材開発、働き方改革、生産性向上の機会ととらえ

高校生活というもの

八 太 正之介 (平成30年卒)



ています。当社の事業提供価値は、「人々が出会い、笑顔が生まれる安全で豊かな社会」を実現していくこと、地域共生を図りながらそのことに貢献していくことです。それらを改めて確認し、社員一人ひとりの力を結集していきたいと思えます。

始まりがあるものには終わりがありません。この災禍を克服し、明るい気持ちで再び学び舎を訪ねることができるようになることを願っております。

コロナ収束の晩には、皆さまも是非日本再発見の旅に出ただければ幸いです。

年間、物心ついてからの人生のおよそ半分を津高で過ごさせてもらいました。学生時代はもちろん、教員としても津高生の心優しく生き生きとした姿を間近で見せてもらいながら、前述のような生活としての高校、そこで生きていくという実感を何度ももらいました。どれもこれも、ありがたいことです。

これらとその他の経験を全部含みこんで、自分は今を生きています。年齢を重ね、つれ合いが増えていくような感じですが、誠に心強い。まだまだ楽しめそうな気がしています。

(三重県教育委員会事務局)

私たちは既卒者は、当然、皆が高校時代を経験して今に至っていますから、高校生活がどのようなものか、各々の中にイメージがおりることだと思います。とは言え、それは卒業した者が抱くイメージであって、リアルタイムで高校生活を送っている人たちの感覚とは違います。「あんなことや、こんなことが、あったなあ」「あれが、青春だった」などと、誇張と美化、郷愁の入り混じった、過去の一場面としての回想に、どうしてもなってしまう。

ですが、「現役」の高校生にとって高校生活は、生活の殆どすべてを占めています。時間的にも、質的にも。友人関係や、恋愛、勉強や部活、この先の進路、それらにまつわる希望や不安、そういったものが、日々の何気ない津高生活の上に成り立っているわけです。家族と接している時でさえ、高校生活を基盤とした自分が家族とかかわっているのです。ゆえに、突然の休校によって高校生活がいったん停止されたことは、高校生自身にとって、その時の自分を成り立たせる基盤としての生活自体が、ある日から一定期間、突如として消え去ったということでしょう。

それは、よく言われる「非日常」というよりもむしろ、「不在」「自分がどこで何をしているかわからない」という感覚を味わわれる経験だったことでしょう。

この休校期間、行く先の見えない不安や受験への焦りがあった中で、私が

今春三月まで津高で勤務していましたが、八太正之介です。感染症の拡大によって、大げさでなく世界中の人たちが、調子の狂った日々を送ることを余儀なくされています。本当に「つらいこと」です。昨年度三年生を担当する中で、津高生も閉塞感ややり場のない思いを抱えて生活しているものと思ひ遣りながら、私は生徒らと日々を過ごしていました。ですが、三月に何とか挙行してもらえた卒業式で代表生徒が読み上げた答辞では、コロナ禍における休校期間の実感として、もっと切実な、ぐらつきとか存在を脅かされる不安とか、そつという感覚が語られました。

仮に今現在の私の生活に自身の高校生活がまだ息づいていると感ぜられることがあるとしても、それは現在の自分の生活を構成する一要素に過ぎません。だから、昨年の春に二か月強の休校期間があった時、授業がストップしさまざまな行事や大会等が延期や中止になるのを見ながら、私は、日常を彩る「イベント」の欠落が高校生を残念がらせるだろう、授業が進まず勉強の遅

れが受験生に焦りを生むだろう、そんなことを想像しました。つまり、全体としての生活の中の一部が停止してしまうのはつらいだろう、というところまえ方をしていました。

ですが、「現役」の高校生にとって高校生活は、生活の殆どすべてを占めています。時間的にも、質的にも。友人関係や、恋愛、勉強や部活、この先の進路、それらにまつわる希望や不安、そういったものが、日々の何気ない津高生活の上に成り立っているわけです。家族と接している時でさえ、高校生活を基盤とした自分が家族とかかわっているのです。ゆえに、突然の休校によって高校生活がいったん停止されたことは、高校生自身にとって、その時の自分を成り立たせる基盤としての生活自体が、ある日から一定期間、突如として消え去ったということでしょう。

それは、よく言われる「非日常」というよりもむしろ、「不在」「自分がどこで何をしているかわからない」という感覚を味わわれる経験だったことでしょう。

短歌について

勝井七海 (令和3年卒)

ら短歌がたぐさん詠めました。そのような中でできたうちの一つが、この歌です。

シャンプーの香りしずかにほどこれてわたしに触れた風から春だ

この休校期間、行く先の見えない不安や受験への焦りがあった中で、私が



(↑参考にした曲。YouTubeチャンネルに各自の投稿を参考にしてください。)

最も強く感じていたのが現実感のなさでした。誰にも会わない毎日は驚くほど平坦で、曜日感覚も早々に抜け落ち、今が本当に春なのか、ここが本当にここなのかわからなくなってしまうという危うさがありました。だから、この頃に詠んだ短歌には、もう受験生だという現実から逃げようとすると同時に自分がいまここにいるという現実を取り戻そうとしているような手つきが見えると感じています。特に、この歌にある春への絶対的な信頼感は、私はいま学校でもなく海でもなくただここにいるのだ、という感覚から引き出してきたものだと思えます。

そしてありがたい事に、この歌は昨年二月に第二十一回若山牧水青春短歌大賞高校生部門にて大賞をいただいた歌でもあります。これは私が高校二年の夏に短歌に出会ってからずっと憧れていた賞でした。ひねくれた高校生だった私は青春という言葉の嘘くささが嫌いで、そんな名を冠しておきながらも典型化した若さの表現にとらわれない短歌が多く寄せられるこの賞は、私の一つの拠り所だったともいえます。青春っぽい演技で共感集めてなんかやらない、と肩肘張って書いている人が確かにどこかにいること、そしてそれが青春として評価されているということ

が、何より青春性に向き合ったための盾になるものだったように思います。実際には、私がそんなに挑戦的な書き方ができていたかと聞かれると自信が持てません。どれだけ青春っぽさに抵抗しているつもりでも、完全にそのコードを脱ぎ捨てる事はとても難しいし、感覚や風景といった連続的なものをこうして三十一音に圧縮してしまった時点で、それは必然的に演技であると思っているからです。それでも私の中では、休校期間中に詠んだという一点のみでこの歌は大切に本当です。そして、そんな独りよがりな理由で気に入ってられる短歌があることをとて

も嬉しく思っています。私は今、大学の文学部で勉強をしています。いまだに感染状況は良くならないし、ここを居場所と呼べるまでにはもう少し時間がかかりそうです。津に住んでいた時の海のような場所も、まだ見つかっていません。ただ、短歌

に関しては、大学に短歌会がないので立ち上げてみたり、選者に三〇〇首詠めと言われて詠んでみたりといろいろ楽しくやっています。これからも依然見通しの悪い日々は続きますが、こうしてなんとか頑張っていけたらと思っています。

津高創立百四十周年募金寄付者御芳名

(卒年順 敬称略)

母校創立百四十周年を機に、同窓会の更なる発展と母校の充実の為、記念募金を開始いたしました。多数のご協力ありがとうございます。ここに「寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。お礼申し上げます。なお本名簿は、六月十日現在のものです。(六百二十五名)

客員

東良子、別府銀孝、小野芳孝、中川弘文、大川暢彦、倉田純子、日紫喜正展陳

(昭和21年卒) 石田秀生、飯田宏行、林久利
(昭和22年卒) 堀川泰義、野々山史郎
(昭和23年卒) 斎藤正和、田村憲司、中川禎二、菅野克也、福田大、松浦健、森本清、柳瀬薫一、伊藤高華、中井毅、中根利彦、日口章、村田文男

(昭和17年卒) 大市晃、豊田三男
(昭和18年卒) 橋本雅弘
(昭和19年卒) 杉谷秀也、別所義郎
(昭和20年卒) 吉川晴、潤田久和、高畑昭久、藤村辰夫、玉垣良典、西川寛

(昭和24年卒) 塚澤正、野呂忠夫、芳澤良孝、林憲男、堀内勇次、山野正志

(昭和25年卒) 真柄尚忠
(昭和20年入) 岡田英昭、青木仁良

(昭和26年卒) 古儀りつ、加藤弘子、川北美喜子、村嶋容子、櫻井寛、杉浦郁子、竹林文子、柳瀬宏子

青木宏達、市川和美、伊藤鈴、伊東経雄、内山宏洋、黒川博子、國府美枝、近澤博一、三分一紀子、高士正、野田烈侯、橋爪美香子、平尾元紀、宮脇雅子、村田修、森田真生、吉田寿

三重桜
(昭和14年卒) 中井貞子
(昭和17年卒) 藤田あい子
(昭和19年卒) 荒木田喜久子、奥山美登子、脇節子
(昭和20年卒) 岩崎禮子、永岡幸江
(昭和21年卒) 今田淑子
(昭和22年卒) 佐藤昌

(昭和27年卒) 村林清子、池田民也、板倉博子、白井幹生、大橋努、木下多嘉雄、小池晴一、世古口弘子、辻岡町子、中川勝之、永田正博、菱田昭子、森田直、山内佳代子

(昭和31年卒) 藤岡美也子、大田武士、岡本晃章、織田久孝、加藤淑子、倉田美穂子、高野素子、前山真知子、森本正美、青木登美子、駒田博子、柘植幸子、寺崎寿美子、東海良成、西井章子、羽入田京子、馬場景子、松家敦子、松岡恵美子、三枝樹昭雄、安福秀一

(昭和23年卒) 倉田幸子、川口登美子、黒宮信子、井端泰子、岩田録子、竹内町子、常岡修、古市桂子
(昭和24年卒) 谷村勢以子
(昭和21年入) 金佳子、栢本正子

(昭和28年卒) 大森布子、國原佳子、飯田道嗣、岡百合子、落合勝、川戸池鶴子、高橋順子、土屋道生、筒井美恵、藤堂敏子、中村正文、西川千代子、藤井伸枝、闇雲弘子

(昭和32年卒) 櫻井合子、田川敏夫、下村尚義、保田欣子、朝日恵美子、岡一郎、奥井日出子、奥野浩邦、鏡澄子、川口道子、後藤誠子、阪保彦、杉田公子、塚脇貴子、橋本直捷、前田茂子、村瀬克行、山岡豊、山口幸子、和田伸

津高

(昭和24年卒) 内田勝美
(昭和25年卒) 松岡紀子、増本恵子

(昭和29年卒) 木村久郎、山田礼子、大西かおる、岡出光生、加藤武、瀬古幸郎、辻頼夫、西川敦久、橋本佳子、林婦美子、牧戸晴子
(昭和30年卒) 古市愛佳、佐藤守男、



治

(昭和33年卒) 岡本孝三、近藤紀次、長谷川和彦、藤田秀臣、松本眞佐美、森本久子、笠井義弘、菊池富士郎、佐野元子、竹田英次、谷正紀、珍道世道、野田芳子、原田和子、山岡せい子、松原弘、松本守弘

(昭和34年卒) 奥田榮子、秋山豪、川村典子、土屋佳子、橋爪文夫、波多野進、堀川幸夫、松井典子、大橋孝章、河戸真知子、紀平紀子、工藤正英、新谷芳子、長谷部春彦、船木啓佑、前田照子、村田元、村田寛子、矢野兼三、横山ふみ子

(昭和35年卒) 林朋子、藤田一義、大橋恒治、倉田武、富田孝之輔、堀さなえ、松野武志、水谷武、水谷泰通、安居渚、秋葉道子、宇佐美公子、笠井英嗣、川端徹哉、田中晃、藤村康男、松浦功、三浦洋司、若松美久子

(昭和36年卒) 飯田俊司、内保忠勝、諸岡節生、池田彰公、臼井靖、窪田静子、後藤法子、廣瀬典子、堀田宣彌、前川昭、山本三千代、赤塚聡、浅田剛夫、伊藤治範、加藤眞佐子、北川映川、合美登、倉田眞由美、黒田幸子、後藤晃一、沢野直紀、田中克幸、谷由美子、谷岡経津子、谷中義人、津坂洋子、戸島和子、中戸義禮、原宣一、原茂子、光辻翠、宮村昊、山本景子

(昭和37年卒) 浦川毅、廣田耕一、今井郁次、宇佐美忠男、大谷泰、川北俊吉、櫻井義孝、竹林武一、林昭久、三浦義秀、三津義賢、小林典博、竹内賢

次、谷口宏、塚澤洋、永井玲子、松岡眞一郎

(昭和38年卒) 赤塚美和子、飯田一郎、保地勝彦、分部紘一、加藤廣海、黒古美智子、阪井ルリ子、柴田清勝、下津恵美子、鈴木秀昭、中村邦子、中林千代子、西井富士子、三井由紀子、山本恭嗣

(昭和39年卒) 一見昌幸、小林澄夫、中尾正己、林暁、丸橋美優喜、三浦ちた子、植松悦子、奥山和代、落合義治、木村俊夫、阪野優、宮路千行、山下彰、山盛恵子

(昭和40年卒) 畦地圭子、宮村智、池田昭子、小野美智子、川喜田久、隆艶子、田邊佳美、南端正仁、松岡和敏、六合美智子、若林英郎、渡辺陌登

(昭和41年卒) 中山幹子、稲畑耕一郎、落合茂雄、田村正衛、蛭雞観順、赤工武司、飯田博朗、倉田淳一、田中友子、福井俊夫、福谷雅守、松浦晴、森本美子

(昭和42年卒) 丸岡隆芳、南仁人、新光子、小川悦子、鈴木明文、竹田寛、西出裕次、前迫實、松永高晴、村林泰子、南洋子、宇野泉、川口幸子、佐藤博、柴田恵美子、妹尾健次郎、堀幸嗣、真弓光文、真弓いつ子、山田耕作、山本俊一、吉田紀子、米川孝一、渡瀬悟

(昭和43年卒) 雲井純、岡本公秀、澤忠知、鳥前誠、中村豊久、柳澤千明、池山喜三男、池山正子、稲葉信子、上山保則、奥田幸子、倉田義次、杉森融、田村知子、土屋久美子、遠山純一、長

野佳久、松井孝夫、山下勝司、吉岡泰三

(昭和44年卒) 戸田喜之、下迫卓史、中川みはる、中原泰男、中山正隆、夏池章廣、真柄幸司、山川尚美、若林哲也、青山和樹、石橋啓子、稲垣啓子、木村秀夫、臼井永男、高橋久武、鈴木優、納屋内小百合、古川和男、堀田裕子、真柄光男、真弓透、宮下ゆかり、向井久視、柳田敬子、吉村平

(昭和45年卒) 佐々木とし子、佐藤米生、奈良谷弘、村嶋正幸、山本剛士、青木敦、上西瑞保、加藤俊一、粉川博之、小林士朗、福本澄子、森川和司、向井珠代、村田和美、山田啓

(昭和46年卒) 永納和子、天野一之、尾茂田一成、加藤十明、水谷正気、山岡陽子、岩間敏、片岡和行、小林佳澄子、佐治たづ子、西村信夫、前川祥一、松葉文行、真鍋章、安田健治朗、安田順子、山路仁、山本修司

(昭和47年卒) 後藤彰、山中利之、鈴木和子、橋本幸司、宮崎正猛、山舖弥一郎、一ノ木進、稲守和之、梅田耕明、平野志保子、松井育子

(昭和48年卒) 小柴眞治、小林俊明、松嶋一晃、望月則子、石飛光喜、伊坂善明、伊坂はるみ、國府則夫、小山久美子、斎藤弘、澤山健一、中島晶子、平井裕美子、森敏子、森田勝巳

(昭和49年卒) 川本洋祐、杉本憲一、富永充久、永戸泉、伊藤伸哉、梅田慶子、大杉啓二、小川典之、河内康、服部克哉、服部久士、正木郁夫、吉田英

生

(昭和50年卒) 葉山俊郎、阪好弘、村主登、中川はるみ、野崎和子、宮崎智徳、伊藤典子、伊藤誠、川村賀子、倉田慎也、斎藤厚子、島田尚子、竹森淳二、永井嘉久、中村泰伸、村松克彦、山本浩子、和田桂太郎

(昭和51年卒) 長谷川一明、故・三藤治喜、清水慎一郎、荒木康行、寺尾正紀、中山慎司、米本光宏、加藤貴司、金丸恵子、小林裕、坂本頼洋、富島均、富島環、富田まり子、中尾治光、中村あつ子、西玲子、藤井由美子、堀部盟子

(昭和52年卒) 近藤直哉、福島俊弘、木野旬、野島修、若林紀子

(昭和53年卒) 北川泰司、信田信行、坪井朋子、豊田仁史、原徹、村田哲也、川村和史、楠井隆司、平賀美津雄、米田美智子

(昭和54年卒) 丸山昭、宮村政秀、宇河晴美、鈴木昌博、竹田治英、田村恭子、藤波正美、向井敏博

(昭和55年卒) 田中寛、村主徹、眞崎俊明、青木良介、川原林義弘、川原林裕美、小堀文昭、55年卒生

(昭和56年卒) 後藤 清、宇陀末枝子、中瀬智恵子、西田純子、花岡みどり

(昭和57年卒) 田中康一郎、中村洋一、垣本育、清水康浩、田中恵一、和田晋渡辺顕一郎

(昭和59年卒) 川村裕子、日沖明子、川戸仁、熊澤圭一郎、熊澤真弓、鶴田章子、東口大介、増地伸之、山路英和

(昭和60年卒) 浦城祐子、津田和久、長嶋時美、前川明男、前川暁、松村順、松村美佐穂

(昭和61年卒) 鈴木啓之、辻健次

(昭和62年卒) 吉川武、安部博幸、日置健、梶本昌利、玉置知子、田山準子、中川泰典

(昭和63年卒) 古屋敷博文、村上敏明

(平成元年卒) 小宮慶子、水谷亨、森増美恵、若林ますみ

(平成2年卒) 江藤公則、森下蒼史

(平成4年卒) 山川和也

(平成5年卒) 青山里江、今西貴久、豊田貴重

(平成6年卒) 山岸潔子、乾竜弥、乾陽子、梅原暁子、前田直人

(平成7年卒) 大杉佳史

(平成8年卒) 中西峰可、中林良太

(平成10年卒) 若菜崇浩

(平成12年卒) 中村英仁

(平成14年卒) 大山敬子

(平成15年卒) 伊藤充子

(平成17年卒) 鎌田貴大

(平成18年卒) 木野紘美、向井将貴

(平成19年卒) 平井達之

(平成22年卒) 坂倉大貴、真弓寛仁

(平成23年卒) 中西紀子

(平成25年卒) 坂倉有紗、中西悠悦

(平成27年卒) 松田剛志

(平成28年卒) 徳田大地

(平成30年卒) 永井希璃夏

進路状況

進路指導部 豊田 貴之

平素より本校の教育活動、進路指導にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、東大キャンパスツアーをはじめ、卒業生の方々にご協力いただく研修が一部実施できませんでした。しかし、校内に整備されたICT機器を利用し、遠方の方とオンラインで交流するなど、新たな方法で研修を実施することができました。今年度も生徒の視野を広げ、高い志を持つきっかけを与えられるよう、できる範囲で様々な研修を実施していきたいと考えています。

また、二〇二二年度入試より「大学入試センター試験」から「大学入学共

(大学合格者数)

	国立	公立	私立	短大
(2021) R3年	194	26	764	9
(2020) R2年	200	37	859	11
(2019) H31年	185	41	776	7
(2018) H30年	200	40	703	14
(2017) H29年	199	23	648	9

	北海道	東北	関東	名古屋	三重	三重・医・医	京都	大阪	神戸	九州	慶應	早稲田	同志社	立命館	
(2021) R 3 年	5	0	3	1	19	80	7	5	8	6	0	5	3	39	84
(2020) R 2 年	3	0	6	2	21	82	7	7	5	9	2	4	17	53	91
(2019) H31年	3	1	0	0	21	67	8	6	7	7	1	4	10	70	120
(2018) H30年	4	0	5	0	16	64	8	11	11	8	2	5	17	68	93
(2017) H29年	2	1	5	1	15	73	5	14	13	18	2	6	5	63	71

通テスト」に変わり、知識・技能のみならず「思考力」「表現力」「学びに向かう力」等が求められる大学入試になりました。本校では従前より、学校の授業を中心にそれらの力を身に付け、生徒どうしが学び合う環境を整えてきました。この三月に卒業した生徒も、例年と変わらず多くの者がそれぞれ希望する進路を実現することができました。

◆有造塾が

開催されました！

日時 令和元年12月6日(金)

13時45分～15時30分

場所 津高等学校 理科棟4階 地学室

〈演題〉「アートとの出会い、現代アートの魅力」

〈講師〉内田 真由美さん(昭和55年卒)

参加者 生徒数77名 教職員 5名

同窓生16名 合計98名

講師の内田真由美さんはアートの仕事を始めて三十年、日本の現代アートが盛り上がり、今や世界に発信される時代になりました。世界的に活躍する草間彌生さんや奈良美智さんなどのアーティストたちの仕事や、携わってきた「ヴェネツィア・ビエンナーレ(日本館で草間彌生が個展)」、

「横浜トリエンナーレ」や「大地の芸術祭」などの国際現代美術展、また、「ビートたけし(北野武)さんの作品、ジャニーズの嵐の大野智さんの個展などについてもお話されました。



物語者

(2021年5月末日現在) (敬称略)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

140周年名簿発行(正誤表発送)以降のお知らせとなります。

旧職(20)	鈴木 茂	昭19	今西(川本)信子	昭31	柘植(宇佐見)幸子	昭37	木村 善治	善治
旧職	行方 保	昭19	木村(赤尾)美代子	昭31	平松 良一	昭37	比佐子	三雄
旧職(24)	山鹿 治	昭20④	井端(西浦)和子	昭31	三浦 智子	昭38	白井 優	国一
陳川昭11	森田 右	昭20④	大西 生子	昭32	柘植 隆太郎	昭38	川川 嘉善	一治
昭12	池村 良夫	昭20④	吉川(日々野)千鶴子	昭33	立入(覚井)悦美子	昭38	宮川 林	彦久
昭20	林 善吉	昭20④	吉田(奥田)ゆきゑ	昭33	松原 弘武	昭38	森小 藤	寛八
昭20④	山内 憲	昭24	吉田(中西)和子	昭34	池村 征宏	昭41	山崎 崎	章喜
昭22	鈴木(原田)正之	津高昭25	丹羽 弘一	昭34	鵜飼 健	昭46	藤山 崎	一
昭23	今村 克之	昭26	林 建樹	昭34	若林 健	昭48	山崎 崎	一
昭23	谷川 允厚	昭27	伊藤 修	昭34	渡辺(宮村)直子	昭50	鈴三 扇	一
昭23	柳 薫一	昭27	倉田 有邦	昭35	伊佐治 尚文	昭51	三 郎	一
三重桜昭16	新井(宮崎)美子	昭30	河井 輝夫	昭36	居崎 三	昭52	扇 一	一
昭18	岸田(高井)紀	昭31	伊東 正	昭36	郷原 衛			
昭18	渡辺(飯田)弥生	昭31	伊藤 憲	昭36	森 英			

お知らせ

令和四年度 総会・パーティー

日時 令和四年六月二十五日(土)
午後三時より

場所 メッセウイング・みえ

テーマ 「環くめぐる」

担当学年幹事 昭和62年卒(代表 伊東 直人)
平成11年卒(代表 浦田 敏寿)

令和四年度総会・パーティーのご案内

実行委員長 伊東 直人(昭和62年卒)

同窓生の皆様におかれましては、未曾有の災禍の中、ご苦労はいかほどかと拝察致します。

昭和六十二年卒、平成十一年卒が担当させて頂いた、二〇二〇年の総会・パーティーは、皆様ご存じのように、コロナ禍の影響により中止を余儀なくされました。

つきましては延期しておりました総会・パーティーを二〇二二年六月二十五日に開催させて頂いたたく、ご案内させて頂けます。

以前もお伝えさせて頂きましたように、テーマは「環くめぐる」としました。「環」はぐるりと回っている様子から「つながったもの」「強い結



目標額にむけて引き続き

百四十周年記念募金活動継続

現在、五百二十九万五千円のご協力をいただきました。一千万の目標額には道半ばです。目標額達成の為、皆様方のご協力、よろしくお願いいたします。

寄付額 一口 5千円(一口以上)

払込み方法

卒年、氏名を明記の上払込みください。

①郵便局からの払込み

同封の払込用紙をご利用ください。

(口座番号 08201718490)

られています。

大変な時期ではございますが、同窓会当日が少しでも和やかで楽しいものとなりますよう、一同心よりおもてなしさせていただきます。この事態が収束し、皆様にお目にかかれるよう、心より祈念しております。

事務局だより

○会報五十八号をお届けします。今回は二万五千部の発行です。

コロナ禍の為、同窓会行事のご案内も報告事項もなく、例年十二月の発行を見送らせていただいております。

○住所異動の際は、卒年・名前・新住所をお書きの上、謄本・FAX・メールのいずれかでお知らせください。

○秋には、ホームページのリニューアルを予定しています。携帯電話からも快適にご覧いただけます。

○最新情報は、是非、ホームページをご覧ください。

平成二十七年より本同窓会副会長を務め頂いていた三藤治喜氏が、令和二年四月二十九日に六十二歳で逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

津高同窓会のホームページ

http://tsuko.jp/
メールアドレス
office@tsuko.jp

TEL・FAX 059-229-7331

編集後記

コロナ禍で、昨年の同窓会は百四十周年の記念行事に加え、本部をはじめ東京、大阪の同窓会も悉く延期か中止に追い込まれました。皆様にお知らせ、ご報告する記事もなく、やむなく会報の発行を暫時的に延期、今回の発行に至りました。申し訳ありませんでした。今年も異種株の猛威で依然として感染終息の見込みもなく同窓会も記念行事のほとんどが中止になりました。但し、十月二十五日の講演会は実施しますのでご参加をお待ちします。講師はAIの研究で知られる昭和四十九年卒の小菅一弘氏(東北大名誉教授・紫綬褒章受章)です。

同窓会は毎夏、八月第一土曜日の開催でしたが、六月の第四土曜日に変更いたします。真夏を避け多くの皆様のご出席を願っています。従って、決算年度、代議員会の日程も変更になります。会報、ホームページにご注意ください。